

## 工業調査及び中小企業

### 基本調査の審査を顧みて

昭和32年12月末日現在で、全国一斉に行われます工業統計調査と共に、本年は特にわが国で最初の中小企業に関する総合的な基本調査が同時に実施されました。

本県におきましても県下440余名の工業調査員と、170名の中小企業調査員によって、それぞれの調査票が各事務所から市町村に提出され、ここで調査区順に整理、審査が行われて各支庁に収集され、支庁においてさらに照合審査された工業調査票甲、乙、丙および準備簿名簿ならびに中小企業総合基本調査票が3月上旬一斉に県に提出されました。

県におきましては8名の担任職員によって連日連夜再審査を行い、中小企業調査票1,000余枚は3月25日に、工業調査票6,800余枚は3月28日に滞りなく整理して商産産業省へ提出いたしました。

ここに調査開始以来、広く各事業所を訪問して、調査の配付収集および記載要領等の指導にあられた第一線の調査員各位、ならびに市町村、各支庁統計係員の並ならぬ御努力に深く敬意を表しますと共に、特に本年工業調査と中小企業調査が一部重複した事業所があつたにもかかわらず、よくこの両調査の趣旨を理解されてよく協力された県下6,300余の各事業所関係者に対し心からお礼を申し上げます。

さて工業調査および中小企業調査の審査を終了し、これを顧みまして、その結果(工業調査のみ)を次表のように取りまとめました。この表に示しますように工業調査の今回の照会事項は合計226件で、前回の413件に比べ半減であり、記入もれも少なく、またその内容もよく整理されていたことは誠に御同慶に堪えません。記入もれの最高はなんといつても例年のとおり11欄電力使用額でした。これに次いで8欄従業者数(6欄経営組織が個人で8欄に、個人事業主の欄に記入されていないもの)17欄製造品出荷額(醤油粕、おがくず等)等の記入もれが主なものでした。不審と思われた最高は11欄ハ、電力使用額の数量および金額であり、これに次いで赤字の理由がはつきりしないもの、13欄製造品本年末在庫額と17欄製造品在庫額の合わないもの、8欄12月末常用労働者数の計と9欄月別常用労働者数の12月末現在数の不一致のもの、および17欄製造品出荷額が不審と思われるもの等の順でした。

なお中小企業調査の照会件数は合計205件で、その主なものは9欄固定資産課税標準額および15欄電力使用額等の記入もれでした。

以上審査結果のあらましを簡単に書いて見ましたが、

少しでも次回調査の記入や審査上の参考ともなれば幸いです。(筆者は青木商工調査係長)

#### 昭和32年工業調査票審査結果調

##### ◎甲 票

##### A 記入もれのもの

照会事項	件数
事業所所在地	1
資本金額	5
兼営の有無	3
従業者数(経営組織が個人で個人事業主欄に未記入等)	11
現金給与額	1
原材料使用額	1
電力使用額	72
13欄製造品在庫額	2
主要原材料名	8
作業工程	2
製造品出荷額(例えば醤油粕、おがくず等)	9
加工賃収入額	2
くずおよび廃物の出荷額	2
昭和30年工業調査を提出しましたか	1

##### B 不審と思われるもの

本社名、本社所在地の不審	1
8欄12月末常用労働者数の計と9欄月別常用労働者数の12月末現在数の不一致	9
電力使用額がおかしいと思われるもの	19
10欄現金給与額と8欄常用労働者数が不均衡と思われるもの	3
13欄製造品、原材料、燃料等の在庫がおかしいと思われるもの	4
13欄製造品本年末在庫と17欄製造品在庫額の不一致	14
14欄固定資産の取得、除却、減価償却額がおかしいと思われるもの	8
建設仮勘定がおかしいと思われるもの	2
製造品名がはつきりしないもの(その他等と)	8
数量単位がメートル法で記入されていないもの	4
製造品出荷額がおかしいと思われるもの	9
加工賃収入額が不審と思われるもの	4
くず廃物がおかしいと思われるもの	1
内国消費税がおかしいと思われるもの	3
赤字の理由がはつきりしないもの	15
対象外と思われるもの	2

##### C 合計

226

# 新市町村の横顔

## たいよう 大洋村



小室村長

この村は水戸からバスで約1時間40分、鹿島郡の中央部に位し、東は鹿島灘の波瀾に臨み、西は北浦を隔てて行方郡に相対し、南は大野村、北は銚田町に隣接している平坦な純農村地帯である。昔この地方は伊島郷や白鳥郷に属し、大部分が中属、阿玉、梶山、守山氏などの地頭、代官の領地、乗地であつたが、明治維新の廃藩置県後は、宮城県、新治県茨城県へとそれぞれ編入されたのである。昭和30年3月31日には町村合併の機運についで白鳥、上島の両村が合併し、その名も洋々たる発展を約束するにふさわしく大洋村が誕生して、面積46.46平方町、人口10,862人(男5,236、女5,626)、世帯数1,871となり、真に村民の融和協力によつて農業経営の合理化と医療福利、教育文化の向上発展を計り、道路を改善し、名実ともに明るく住みよい新農村を建設することだろう。

## 2. 産 業

まず農業面を見ると、北浦沿岸は水田、海岸地帯は原野、中央部は畑、山林が多く、農家戸数1,574戸、農家人口9,878人(男4,774、女5,104)、耕地面積1,790町(田481町、畑1,299町、樹園地10町)に達し、なかでもさつまいもが851町、大麦443町、小麦505町、なたね240町の作付面積を有し、さつまいもは年産460万メに達し、澱粉の原料として大部分千葉県その他へ出荷して大変好評を受けており、本県における特産地として将来の発展が期待される。次に畜産面を見ると、乳牛76頭、役牛760頭、馬182頭、めん羊33頭、山羊131頭、豚1,667頭、兎151頭、にわとり11,690羽に達しており、村としても優良乳牛、種豚の導入貸付を行い、酪農経営と養豚、養鶏経営の普及奨励を行っている。特に人口に比べ耕地が少ないので、農業の多角化と有畜化を促進して農家における現金収入の大幅な増加を図っている。なお毎年行われる鹿行地方の畜産共進会でも優秀な成績を収めている由。次に農機具の普及状況を見ると、電動機28台、石油発動機348台、ハンドトラクター6台、動力耕うん機5台、脱穀機343台、足踏脱穀機904台、動力糶すり機72台、製粉機42台、精米(麦)機26台、噴霧機41台、動力製糶機10台、足踏製糶機892台、畜力カルチベーター140台、畜力碎土機221台、畑用播種機378台、畜力すき842台、家畜いも切機39台に達し、次第に農業の機械化、動力化が進んできた。この村の農事研究会の活動は非常に活発で保温折衷苗代では大きな効加を現している由。また鹿

## 1. 沿 草

島灘沿岸におけるはまぐりの採取は、昔から非常に盛んで年産3万メに達し、本県随一を誇り、静岡、三重県その他へ出荷している由。砂防林は150町を管理しており、その保護育成問題が村としては大きな関心事となつている。土地改良事業も梶山地区の区劃整理50町歩を計画し33年度から実施する予定となつている由。

次に工商業面を見るとほとんど見るべきものはないが常用労働者のいない個人商店105、従業者165名、月間(6月)販売額522万円、その他法人および常用労働者を有する個人商店が若干あるので、工場数は26、従業者数12名、年間製造出荷額7,402万円に過ぎない。

3. 教育文化  
ここには小学校4(外分校2)、中学校2あつて児童数2,389名(男1,187、女1,202)、中学生徒数707名(男361女346)で、合併を契機として老朽校舎の改増築に着手し、白鳥小学校4教室(470万円)、上島東学校6教室(650万円工事中)白鳥東小学校4教室(450万円予定)の整備に力を注ぎ、中学校の統合は34年度に行う予定である由。また中央公民館は35年度に建設予定であるが、青年、婦人団体、子ども会なども公民館を中心に統合して活動を展開し、社会教育の振興と新生活運動の大きな推進力となつており、料理講習会、生活改善、夏衣の貸付などで大きな効果をあげている。また町としては役場庁舎の新築とともに幹線道路および農道の整備改修に努力している。また村民の結核予防と寄生虫の駆除のために相当の村費補助を行い、蚊、はえ退治による環境衛生の改善にもめざましい活動を展開している由。

## 3. 教育文化

名所旧蹟としては、大正5年に国宝に指定された大野地区の福泉寺の釈迦如来立像は鎌倉時代中期に清浄宗に尊となつていたものである。また汲上地区の如意輪観音は大同元年頃に創建されたもので、常陸三十三観音の札所一番として近郷近在に広く知られている。

## 小室村長の抱負

1. 小学校老朽校舎の改増築と中学校の統合および公民館の建設など教育施設の整備を年次計画のもとに実施する。
2. 役場を中心とした道路網と産業道路を年次計画のもとに整備すること。
3. 農業生産力の増強を図り、安定農家を確立するに関係機関と緊密な提携いして土地改良および畜産等に努めること。
4. 村民の健康増進と環境衛生の改善に努め、村民福祉増進を図ること。
5. 行政機構の合理化と事務の簡素化によつて村民サービス向上に努めること。

昭和32年度一般会計歳入歳出予算

(単位円)

歳入	村税	地方交付税	公営企業及び公債収入	使用料及び手数料	国庫支出金	県支出金	寄付金	繰入金	繰越金	雑収入	村債	合			
18,148,297	12,759,233	1,900	185,000	1,401,600	128,290	500,200	2,178,553	1,896,300	1,700,000						
歳出	議会費	役場費	警察消防費	土木費	教育費	社会及び労働施設費	保健衛生費	産業経済費	財産費	統計調査費	選挙費	公債費	諸支出金	予備費	合
778,450	7,290,793	488,127	2,980,758	17,419,740	191,707	420,250	3,780,868	262,854	139,250	38,560	1,000	1,963,110	1,143,908		